

研修会 ちば千年の森

初夏の豊英島、種の保存と生物多様性

藤田 隆（松戸市）

日 時：2019年5月24日（金）9時30分～13時30分、天気：晴

場 所：豊英島 千年の森（君津市）

参加者：20名、担当指導員：米澤理雄 前田悦子

小糸川のつり橋を渡った先には別の世界が広がる…。小糸川の浸食と川回しによる新田開発、豊英ダム completion によって中の島のように残った豊英島の「ちば千年の森」は知られざる世界を垣間見た感じでした。

5月24日（金）快晴の千葉駅 NTT 前に集合した20名の参加者はその世界をまだ知らずにいました。「ちば千年の森をつくる会」坂本文雄代表と伊藤道男事務局長がガイド役として添乗し、千年の森を訪れるのは初めてという参加者が大半を占めました。

最初の出会いは豊英ダム。38mの高低差に背中がゾクゾクし、小糸川の川底がまともに見られないほどでした。トビが悠然と風を切り、キビタキがさえずる中ダムを渡り切り「ちば千年の森を守る会」の栗山・新井の両会員と合流し、観察が始まりました。

ニシキウツギ・シマネセンキュウ・ギブシ・ガマズミ・シラヤマギク・ナワシロイチゴ・ノイバラ・テリハノイバラ・ヤマテリハノイバラ・カズサヤマアザミ…。途中にクワ・ゴマダラヒトリ・ハムシなど昆虫も入ってくると、メモを取る、カメラに収める、ピンボケのチェック、立て続けに植物名が現れては消える。つり橋にたどり着かないうちに頭がいっぱいになりそうでした。

島に入るとシカが食べないアセビが繁茂し、散策路そばにカンアオイ・オオバノトンボソウがいたところに見つけられました。高山帯でない清澄山系にあって、モミ・ツガ・ヒメコマツの生息は垂直分布の寸詰まり現象として著名で、とりわけヒメコマツはシカの食害を避け、網の中で生育調査が行われていました。



カンアオイ

会の設立当初、竹林の伐採に始まった森づくりは、シカの食害への対応もありました。絶滅が危惧されているヒメコマツ・ミツバツツジなどの高山帯系の針葉樹、黒潮に乗って分布してきた植物が同じフィールドで生育することの妙に魅せられた会員もいると聞きました。

豊英島は、動物は侵入しても活動日以外、人の侵入はありません。環境がまもられています。貴重な環境の下で植物相の調査を継続するという大きな目標があるようです。

絶滅危惧種、生物多様性はだいぶ広まって、聞いただけで分かった気になる用語ですが、千葉駅から来る途中のバスの中で坂本代表からお話いただいた遺伝子の多様性に着目したクマガイソウの講演会の話は多様性という点で興味深く、頭に残りました。



千年の森看板の前で集合写真